

私たち、終戦の年生まれ

8/29
赤旗

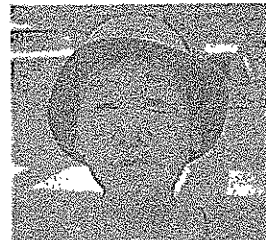
終戦の年に生まれた者として戦争法案は絶対に阻止したい。今年70歳の愛知県内

の3氏に思いを聞きました。

(吉岡淳一)

「戦争だけはいいかん」

孫に平和残したい



愛知・春日井市

伊藤 裕規さん

航空自衛隊小牧基地や高蔵寺弾薬庫など軍需都市としても栄えてきた春日井市民として今回の法案は絶対に許すわけにきません。イラク戦争では小牧基

地の輸送機が派遣されました。再び米国の戦争に協力すれば小牧が出撃拠点になるのは目に見えています。春日井がISのようなテロの標的にならないとも限りません。街頭で宣伝をしていたら、「イラクに派遣された自衛隊員の婿がいる」という方が署名しまし

た。戦争法案が通ったら大変なことになるので自衛隊を辞めてほしいと話していました。私の両親は豊川海軍工廠(こうしょう)で働いていました。1945年、母は私を身ごもっていたため自宅にいました。父は空襲に巻き込まれました。防空壕(ご

う)にいた父は、危ないとみて外に逃げ、その後そこが直撃され、九死に一生を得たといえます。私は親世代と力を合わせ本当に苦勞して荒れ果てた日本をここまで築いてきた一人です。70年続いた戦争のない日本を孫の世代に残したい思いでいっぱいです。

若者だけじゃない



名古屋市千種区

武田 節さん

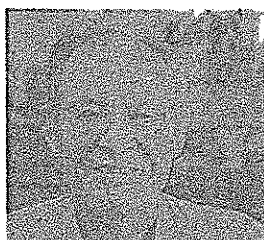
戦中は一家で朝鮮に移住し、父は洗濯屋(あらいはりや)着物の洗濯業)をしていました。朝鮮語は一言も話さず、相手の方が日本語を学ぶのに懸命だったそうです。

私が生まれた7月15日のころは日本が追い詰められ、母は夜でも逃げられるように着物を着ていたそうです。日本に帰国する船は身動きが取れないほど混雑し、トイレに行けないため袋に用を足しバケツリレーで捨てたそうです。

70年前に朝鮮で生まれた日本人として、きちんと謝らなければならぬと感じています。でも安倍首相は「談話」で植民地支配の問題をいまいにし、許せません。戦争法案反対の宣伝を朝していたら近所の同世代とばったり会い「こん

なことにしているんですか」と驚かれました。夕方、「私にできることはないか」と相談されました。今まで活動したことがなかった方ですが署名も集めてくれました。若い人の行動がメディアでにぎわっています。が、高齢者にも広がっていますよ。

話せば思いは一緒



愛知・豊田市

田中 勝美さん

生まれは静岡県磐田市です。戦中、防空壕(ごう)に避難した話を聞きますが、土を掘るのもお金がかかるしこの家にもあるわけじゃないかっただけです。親父が

大工だったので幸い家には防空壕がありました。空襲になると近所の子どもが「入れてください」と言ってきたそうです。

私が生まれたときは上にも3人のきょうだいがいまして、母は、空襲から逃げるとき、「生まれたばかりの子をかまってい

られない。上の子だけでも助けない」と思ったそうです。70年生きてきて感慨深いものがあります。豊田は企業城下町で政治の話がしづらいたいわけありません。たしかにそういう面が強いんですが、近所の人と仲良くなって話してみると「戦争だけは対話しない」とね。